

***** メリークリスマス 1995 *****

寒くなってまいりましたが、皆様お元気でお過ごしのことと存じます。慎んでクリスマスと一足早い新年のご挨拶を申し上げます。

今年是由紀子がアイオワ大での二年目を向かえました。それに伴い、マンションを買いました。相変わらず仕事に追われる毎日です。アイオワ大での仕事は日本語プログラムのコーディネータと日本語の教師のトレーニングが主です。

一味は初めてのサバティカルの真最中です。サバティカルというのは米国の大学には大抵あるシステムで助教授や教授が七年勤めるとに1学期間もらえる休みのことです。もちろん、研究活動をするための休みです。パデュー大は休みを給料全額支給で1学期間とるか、半額支給で2学期間とるか選ばせてくれるのですが、一味はもちろん2学期間の休みをとりました。この期間を利用して本を書くつもりで、その基礎固めとして月刊「日本語」（アルク出版）の12月号から10回にわたりコンピュタリテラシーをテーマにしたシリーズを書いています。

由紀子のマンションの購入後まもなく、内装部分で変えたいところがたくさんあったので、一味が一手にひきうけて大工仕事をしました。その内容は次のようなものでした。トリムウッドという壁の一番下の部分の木のペンキぬり、内部のドアを全て取り替え、バスルームの流しの取り替え、配管工事、水の軟水化器の設置、台所とバスルームのキャビネットのドアを全て取り替え。（確かに勉強になりましたが、あまり何度もやりたいものではありません。カズ）

8月の夏休みには九才になる甥の直紀が二週間我が家に泊にきました。突然子供を持つことの大変さを味わうことになり、かなり戸惑いましたが、まあ何とかなったようです。直紀はかなり楽しかったようです。カヌーに乗って川を下っているときにカヌーをひっくり返したり、遊園地でバンジージャンプのようなとても高いブランコのようなものに挑戦しました。直紀のエネルギーは留まる場所を知らないのですが、一味にはエネルギーの限界があることがよくわかりました。英語の勉強も少しはできたようですが、一番大切なのは日本人以外の人間にとことん囲まれるという経験をしたことだろうと思います。また、直紀は怒られないでどこまで大人の言うことを聞かないですむかという実験をしていたようでしたが、時々その実験が無残に失敗に終わることがありました。（ははは。カズ）

ラフィエットの日本食のレストランに勤めている板前さんと知り合いになり、彼の御好意で「料理の鉄人」のまねごとの様なことを3度ほどしました。レストランが休みの日に家に来てもらい、あらかじめ決めておいたメインの食材を使って5、6種類の懐席料理を作ってもらおうという趣向です。親しい仲間ですとちょっと贅沢な食事をすることができました。これまでに選んだ食材はアナゴ、えび、そして栗です。毎回すばらしい料理に舌鼓を打ちました。一味は料理の手伝いをして、少し日本料理の手法を習ったようです。（ほんの少しだけです。食べるほうが大分やさしいです。カズ）

チビタンとミーチャンはどちらも健康で、時々一味と一緒にアイオワに行きます。

一味は X-files というテレビ番組が気に入って、毎週楽しみにしています。（このほか、マイケル・ジョーダンが戻って来ましたから、今年も NBA はとても面白いですよ。カズ）

というようなわけで、由紀子の単身赴任は案外うまくいっています。仕事面ではお互い成長もしていますし、プライベートな部分では助け合っています。そんな中で、一番よかったなあと思えるのは、お互いが相手を本当に理解し始めたという実感を持ち始めたことだと思います。

皆様どうぞよいクリスマスとお正月をお迎えください。私達は14日に東京に向けて発ち、クリスマスは宇和島、お正月は東京という予定です。時間があったら御連絡ください。

最後になりましたが、一味は来年大台に乗ります。（言わなくても、わかっています。カズ）

一味 & 由紀子

***** 頌春 1996年 *****